



不発弾処理完了しました

南吹田3丁目で見つかった不発弾処理が7月24日午後0時6分から行われました。弾頭と弾底から起爆装置となる信管が取り除かれ、不発弾処理対策本部長(市長)が安全を確認し、午後1時33分に安全宣言を発表しました。

当日、市は警戒区域内に住むや勤務している人に対して避難を呼びかけました。午前10時から避難が開始され、11時からは交通規制が行われるなど警戒区域内は立ち入り禁止となりました。避難誘導には吹田地区特別養護老人ホーム連絡協議会や吹南地区の自治会、消防団、民生・児童委

員などに協力していただき、予定どおり避難を完了することができました。

また、JR京都線や、おおさか東線の一部が警戒区域内であったため、JR各線で正午ごろから列車の運転が取り止められました。

市では、4月27日の不発弾発見から、陸上自衛隊や警察などの関係団体が構成する不発弾処理対策本部を設置し、不発弾撤去に向け協議を進め、撤去することができました。関係団体や地域の皆様、ご協力いただき、ありがとうございました。



取り除かれた信管の説明を聞く本部長



自衛隊から終了報告を受ける本部長



不発弾をトラックにつみ込む様子



不発弾をつり上げている様子



市長コラム No.85

こもれび通り

上司

後藤圭二



コラムの音声版はこちら

パソコンが事務室に登場し、その後、携帯電話、スマホ、SNSと急速な情報技術革命が進み、一気にDX(デジタルトランスフォーメーション)時代を迎えました。

「あー、ちょっとごめん、これどうしたらええの?」パソコンを前に上司が若手職員に。よく見られる光景です。「えー、ところでクラウドって何だっけ?」「課長、今手が離せなくて。それくらいwikiってくださいよ」「うい?ういきる??」

かつて上司は部下より仕事の能力が優れていて当たり前という認識でしたが、今や市役所も上司受難の状況が加速中です。

では、上司の上司たるゆえんとは?

たとえDX時代にあっても、豊富な経験と信頼に基づくネットワーク、技能、物事を俯瞰する力は「時間」によらなければ得られません。それらが良質であること、そして単なる知識だけでなく、それを仕事に実装できる知恵を持っていること。それを明確に部下に示せるのが上司、管理職というものです。

「ごめん、このアプリどう使うの?」「はあ?」昨夜も娘に面倒くさそうにされました。最新技術は若者にお任せしながらも、DX時代を迎えた今、これからも自身の経験と知恵を活かすために、一定のレベルではあり続けたいと思います。「技能と技術、知恵と知識は異なるものだ」と言い訳をつぶやきながら。